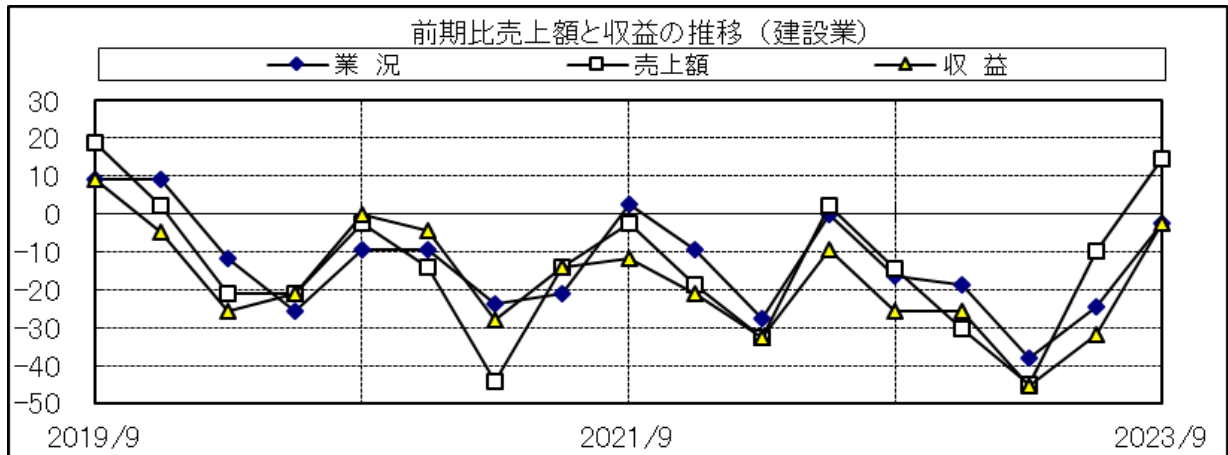


建設業 41 企業（回答率 100.00%）の調査結果です

□ 景 況

DI 値 の推移	1～3月 期実績	4～6月 期実績	7～9月 期実績	10～12月 期見通し
業 況	-38.2	-24.4	-2.5	-9.8
売上額	-45.2	-9.8	14.7	2.4
収 益	-45.3	-31.7	-2.5	-7.4

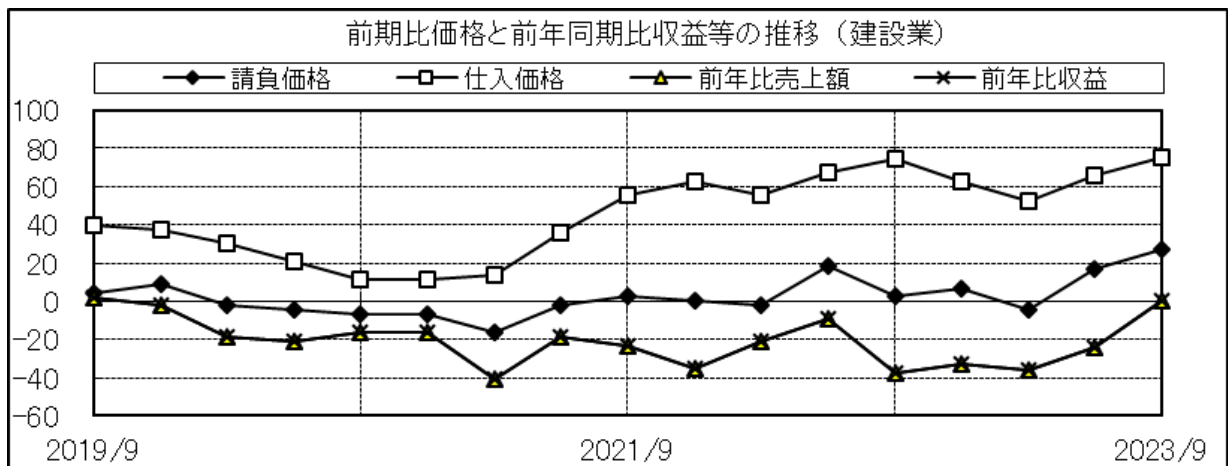
今期の業況判断 D. I. は $\Delta 2.5$ で、前期比 21.9 ポイント上昇、前年($\Delta 16.3$)比で 13.8 ポイント上昇した。地区別 D. I. の水準は高い順に、静内が最も高く、次にえりも、浦河・三石が同率で続き、様似・広尾が同率で最も低い水準となった。売上額判断 D. I. は、14.7 で、前期比 24.5 ポイント上昇。収益判断 D. I. は $\Delta 2.5$ で、前期比 29.2 ポイント上昇した。



□ 価格面の動き・前年同期に比べた動き

DI 値 の推移	1～3月 期実績	4～6月 期実績	7～9月 期実績	10～12月 期見通し
請負価格	-4.8	17.0	26.8	17.1
仕入価格	52.4	65.9	75.6	56.1

請負価格判断 D. I. は 26.8 で、前期比 9.8 ポイント上昇、前年(2.4)比では 24.4 ポイント上昇した。仕入価格判断 D. I. は 75.6 で、前期比 9.7 ポイント上昇、前年(74.4)比では 1.2 ポイント上昇した。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	1～3月 期実績	4～6月 期実績	7～9月 期実績	10～12月 期見通し
残業時間	-4.8	-19.6	-9.7	-7.3
人手状況	-28.6	-48.8	-43.9	-43.9

残業時間判断 D. I. は $\Delta 9.7$ で、前期比 9.9 ポイント上昇し、残業時間が増加したとする企業割合が増えた。

人手過不足判断 D. I. は $\Delta 43.9$ で、前期比 4.9 ポイント上昇し、人手不足感は弱まった。

□ 設備投資の動き

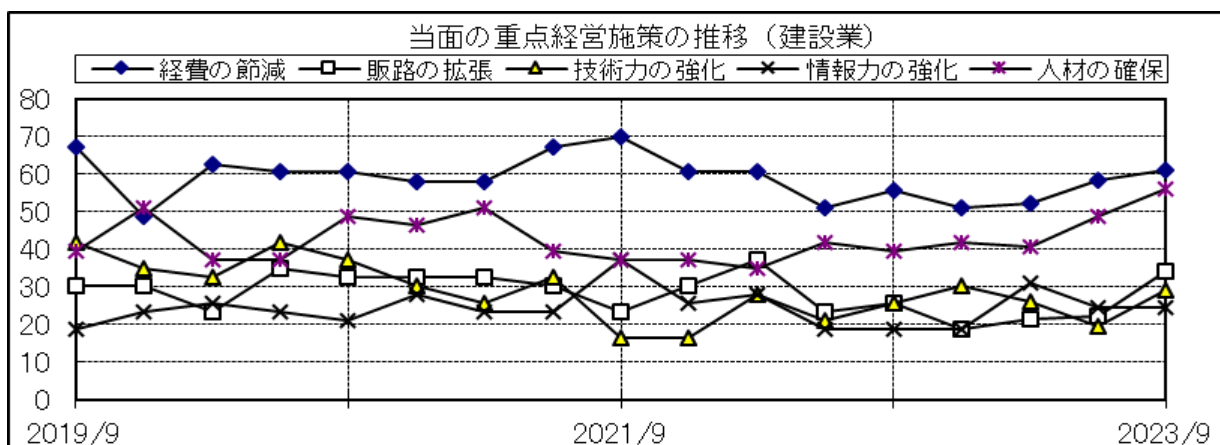
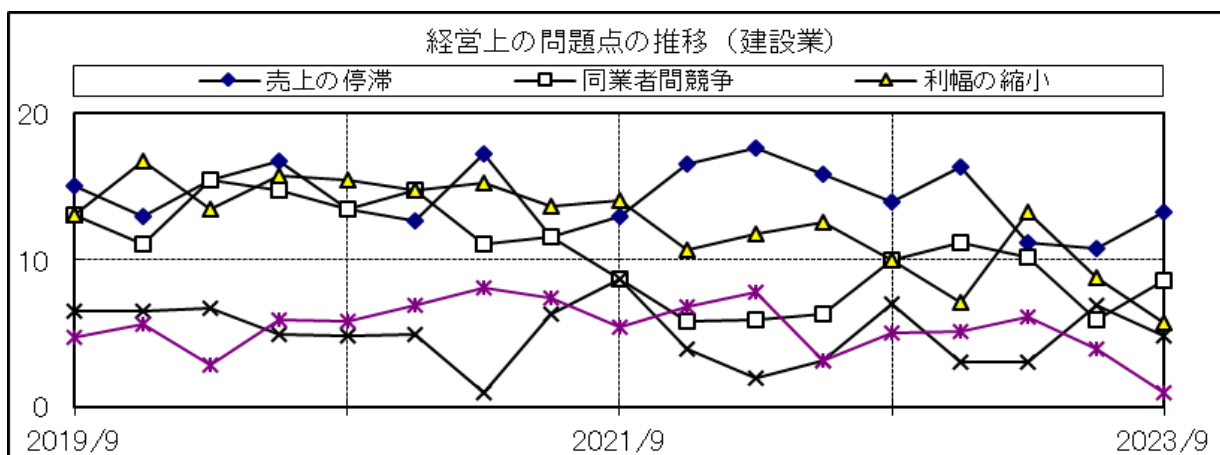
設備投資の充足感を示すD. I. は $\Delta 2.5$ で、前期(0.0)比2.5ポイント下降した。

設備投資実施企業割合は4.9で、前期(17.1)比12.2ポイント下降した。設備投資は、前期7社に対し、2社の実施となった。来期の設備投資は、2社の予定となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「材料価格上昇」が24.8%と最も多く、次に「人手不足」21.0%、「売上停滞減少」13.3%、「同業者競合」8.6%、「下請確保難」9.5%、「利幅縮小」5.7%、「人件費増加」4.8%、「大手企業競合」・「諸経費増加」が209%、「技術力不足」・「天候不順」が1.9%となっている。

重点経営施策では、「経費節減」が61.0%と最も多く、次に「人材確保」56.1%、「販路拡大」34.1%、「技術力強化」29.3%、「情報力強化」24.4%、「新事業開始」・「労働条件改善」が4.9%となっている。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断D. I. は $\Delta 9.8$ と、今期比7.3ポイントの下降を見通している。

予想売上額判断D. I. は2.4と、今期比12.3ポイントの下降を見通している。

予想収益判断D. I. は $\Delta 7.4$ と、今期比4.9ポイントの下降を見通している。

予想請負価格判断D. I. は17.1と、今期比9.7ポイントの下降を見通している。

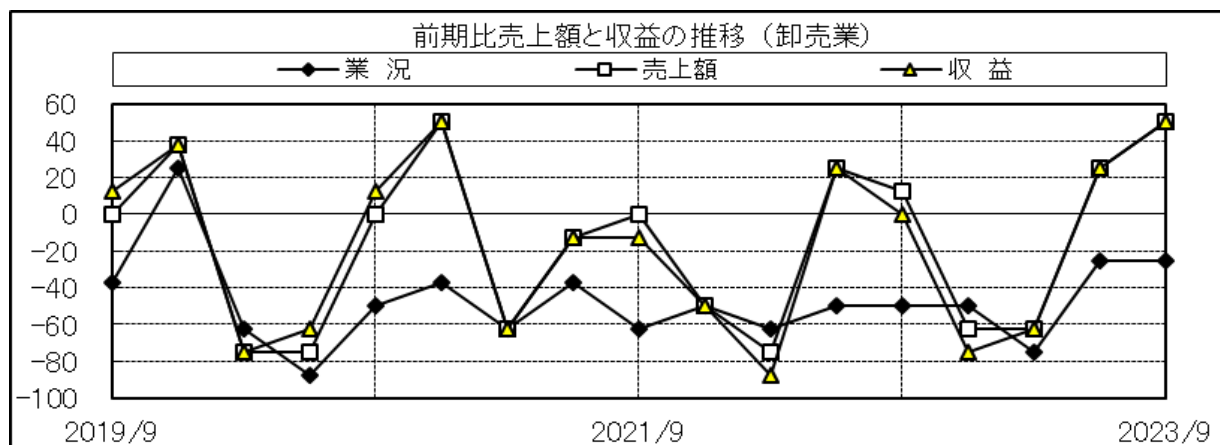
予想仕入価格判断D. I. は56.1と、今期比19.5ポイントの下降を見通している。

卸売業 8企業（回答率 100.0%）の調査結果です

□ 景況

DI 値 の推移	1～3月 期実績	4～6月 期実績	7～9月 期実績	10～12月 期見通し
業況	-75.0	-25.0	-25.0	-50.0
売上額	-62.5	25.0	50.0	75.0
収益	-62.5	25.0	50.0	37.5

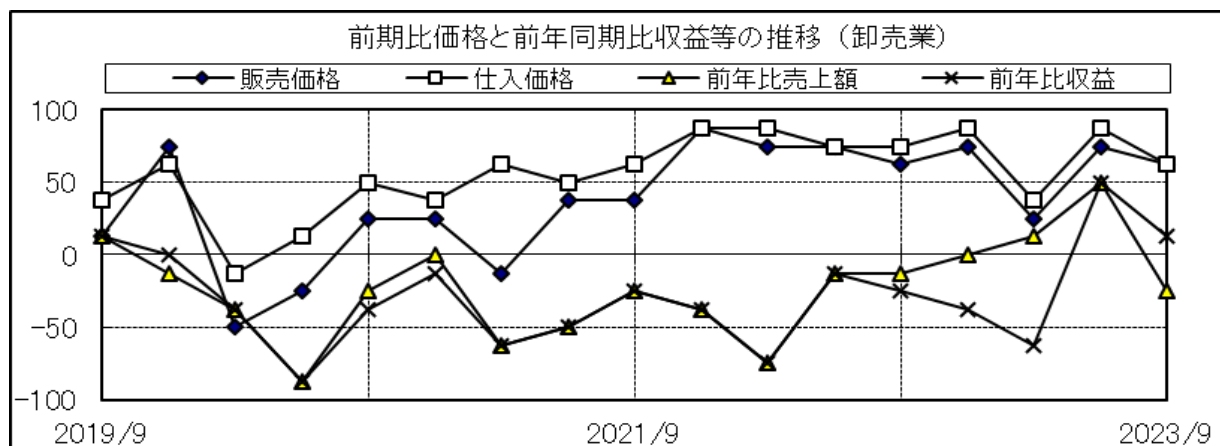
今期の業況判断 D. I. は△25.0 で、前期と同水準となった。前年(△50.0)比では 25.0 ポイント上昇した。地区別 D. I. の水準は、浦河地区は上昇、静内地区は下降、様似地区は横這いとなった。売上額判断 D. I. は 50.00 で、前期比 25.0 ポイント上昇した。収益判断 D. I. は 50.0 で、前期比 25.0 ポイント上昇した。



□ 価格面の動き・前年同期に比した動き

DI 値 の推移	1～3月 期実績	4～6月 期実績	7～9月 期実績	10～12月 期見通し
販売価格	25.0	75.0	62.5	37.5
仕入価格	37.5	87.5	62.5	37.5

販売価格判断 D. I. は 62.5 で、前期比 12.5 ポイント下降。前年(62.5)と同水準となった。仕入価格判断 D. I. は 62.5 で、前期比 25.0 ポイント下降。前年(75.0)比では 12.5 ポイント下降した。業種別では、水産業・食品業の、販売・仕入価格はともに同横這いとなった。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	1～3月 期実績	4～6月 期実績	7～9月 期実績	10～12月 期見通し
残業時間	0.0	0.0	25.0	0.0
人手状況	0.0	0.0	0.0	0.0

残業時間判断 D. I. は 25.0 で、前期比 25.0 ポイント上昇し、残業時間が増加したとする企業割合が増加した。

人手過不足判断 D. I. は 0.0 で、前期と同水準となり、人手不足感に変化は無かった。

□ 設備投資の動き

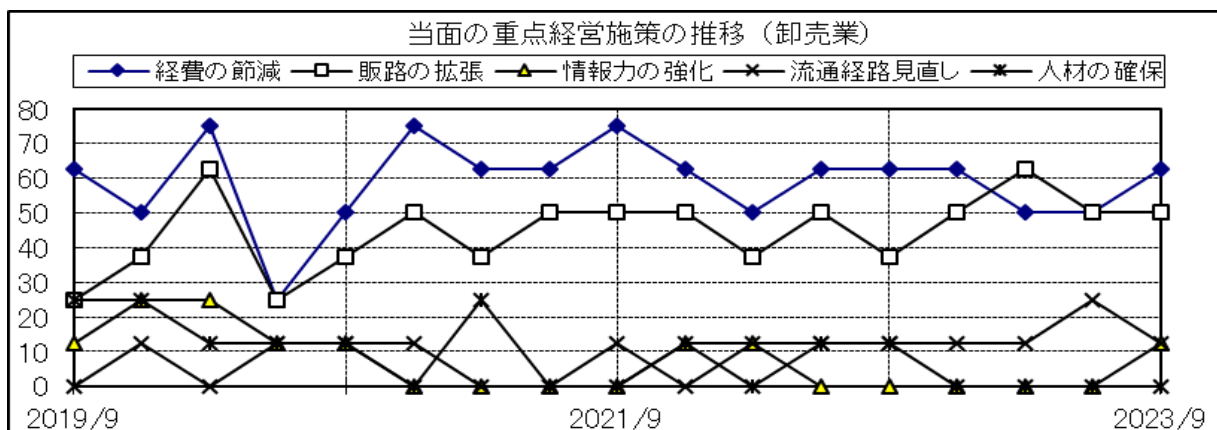
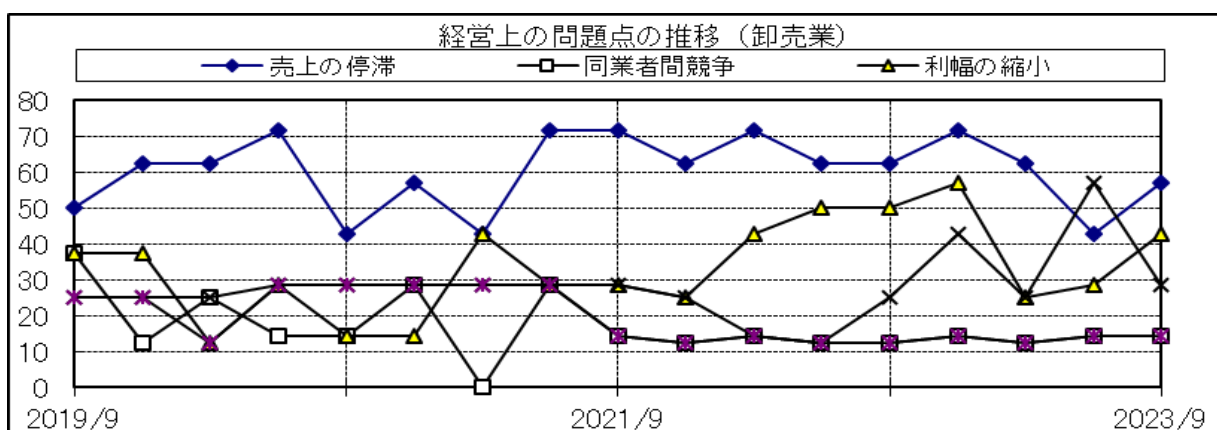
設備投資の充足感を示すD. I. は $\Delta 37.5$ で、前期($\Delta 12.5$)比25.0ポイント下降した。

設備実施企業割合は0.0で、前期(0.0)と同水準となった。設備投資は、前期0社に対し、実施した企業は0社。来期の設備投資予定は0社となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上停滞減少」が57.1%と最も多く、次に「利幅縮小」42.9%、「取引先減少」・「店舗老朽化」が28.6%、「同業者競合」・「販売商品不足」・「値上要請」・「人件費増加」・「諸経費増加」・「地場産業衰退」・「為替レート変動」が14.3%となっている。

重点経営施策では、「経費節減」が62.5%と最も多く、次に「販路拡大」50.0%、「情報力強化」・「新事業開始」・「流通経路見直し」・「取引先支援」・「不動産有効活用」が12.5%となっている。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断D. I. は $\Delta 50.0$ と、今期比25.0ポイントの下降を見通している。

予想売上額判断D. I. は75.0と、今期比25.0ポイントの上昇を見通している。

予想収益判断D. I. は37.5と、今期比12.5ポイントの下降を見通している。

予想販売価格判断D. I. は37.5と、今期比25.0ポイントの下降を見通している。

予想仕入価格判断D. I. は37.5と、今期比25.0ポイントの下降を見通している。